(非公開)データ分析による法と社会の関係の解明

准教授 ・ 森　大輔

大学院人文社会科学研究部 (法学系) 法政・紛争解決学専攻

研究内容

●社会調査データの統計分析
法律の内容が実際には社会の中でどの程度守られているか、法律が作成された時の意図通りに人々は行動しているかといった問題を、既存データの統計分析や、アンケート調査・実験などの社会調査で新たに得たデータの統計分析により、解明しようとしています。統計分析は法学だけでなく、経済学、社会学、政治学、心理学など社会科学の諸分野、さらには理系の分野とも共通する方法が確立しており、広く様々な分野に応用が可能です。

●社会科学における実験的手法
実験の方法を利用して、法が人々の行動に与える影響を検証しようとしています。かつて文系分野では実験ができないと言われることがありました。しかし、現在では経済学や心理学などで実験が行われ、アンケート調査と組み合わせたサーベイ実験という手法もあります。

●質的比較分析（QCA）
QCAは、統計分析を行うにはデータの数が少ないが、ある程度は事例の数がある場合に、システマティックな分析を行うことができる方法です。定量的方法と定性的方法の中間に位置します。ブール代数や集合論を用いて、当該結果が生じる必要条件や十分条件を見つけようとします。

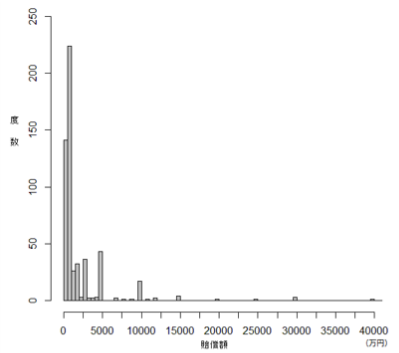

図1　あるアンケート調査での人々の賠償金の評価額の分布（熊本法学vol.139より）

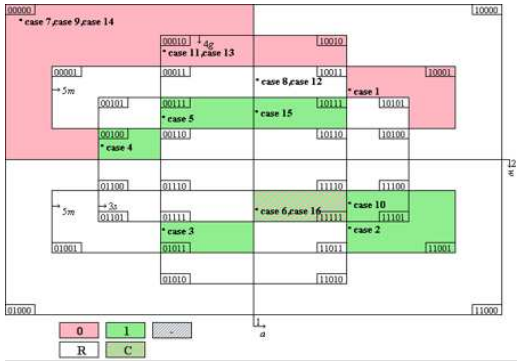

図2　QCAの分析で作成される図

提供できる技術

アンケート調査の統計分析 / 社会科学的な実験 / 質的比較分析(QCA)によるデータ分析

関連リンク

http://park18.wakwak.com/~mdai/

キーワード

社会調査　統計分析　アンケート調査　サーベイ実験　経済学実験　質的比較分析(QCA)

《ご連絡先》　コーディネータ：木戸　拓実 TEL：**096-342-3209** FAX:**096-342-3209** mail:**t-kido@jimu.kumamoto-u.ac.jp**